

令和6年度分 セルフモニタリング報告書

令和7年 5月7日

施設名: 追分児童館
指定管理者名: 社会福祉法人追分福祉会

モニタリング項目	指標	指定管理者コメント	自己評価
1 事業計画の達成度			
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理が行われたか。	利用者数	概ね計画通りに実施した。	A・B・C・D
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	施設稼働率 (参考)利用料金収入の状況	利用者数は前年度よりも増えたが、将来的な利用者数の減少が見込まれるため、利用児童や保護者のニーズにあったサービスの提供に努めていく。	A・B・C・D
自主事業は計画どおりに行われたか。	委託事業・自主事業の実施状況及び事業参加者数	行事等の変更もあったが概ね計画通り実施した。	A・B・C・D
利用者拡大・事業実施等の情報発信が行われたか	情報発信・事業PR回数	メール連絡、掲示などで行事の周知をしている。	A・B・C・D
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	地域・関係団体等との連携	読み聞かせサークル赤ずきんさんやあびら教育プランさん、地域の人材と連携した行事を実施した。	A・B・C・D
2 利用者の満足度			
利用者の満足が得られているか。	利用者満足度	アンケート調査でも高評価を頂いている。	A・B・C・D
利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	苦情・要望の状況 (利用者アンケート調査結果)	紙面とネットフォームを併用して実施した。	A・B・C・D
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分に行われたか。	窓口体制の状況	適切に対応を行っている。	A・B・C・D
3 管理運営の効率性			
経費の低減は図られているか。またその取組は十分か。	効果的な管理運営取組状況	節電、節約を心がけて行っている。	A・B・C・D
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	効果的な管理運営取組状況	節電、節約を行い経費を最小に抑えている。	A・B・C・D
4 適正な管理運営			
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	職員の配置状況	地域の人材を雇用している。	A・B・C・D
職員の能力向上に向けた取組は行われたか(研修等)。	職員研修の実施状況 マニュアル等の作成 状況委託の状況	外部研修への参加、子ども園と合同の職場内研修など実施している。	A・B・C・D
施設の平等な利用等について、適切に処理されているか(使用料の減免、還付含む)。	利用拒否の状況、平等利用の取組状況	利用の拒否は無し。適切に行っている。	A・B・C・D
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか	個人情報保護の取り組み(対策)	適切に取り扱っている。	A・B・C・D
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	収支決算の適正な管理	適切に処理している。	A・B・C・D
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	施設修繕等の状況	電気設備、消防設備の点検など適切に行っている。	A・B・C・D
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	備品購入廃棄の状況	日常の記録など適切に行っている。	A B・C・D
安全対策(事故防止等)は十分だったか。	事故等の発生状況 マニュアル等作成状況	遊具の点検、整備を行い、事故防止に努めている。	A B・C・D

法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	基本協定書及び年度協定書の等遵守	法令等を遵守している。	☒ A ・ B ・ C ・ D
5 地域貢献			
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	地元発注状況	備品の購入、工事の発注など地元の業者に依頼している。	A ☒ B ・ C ・ D

A: 目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。

B: 目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。

C: 概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。

D: 目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。

自己評価 ★★★★☆

(最大評価を★5つとし、5段階評価で星を塗りつぶしてください。)

指定管理者の自己評価(全体を通して)

新1年生の利用者が多く、高学年の利用者も少数いることもあり、前年度よりも利用者数は増加しました。大きな新規事業としては、ガンケ山での出張児童館事業やエントランスで実施しているふれいばへの引率事業を計画していました。ガンケ山の出張児童館については、配置人員の問題や移動距離の問題などもあり、年数回の実施に留まりました。今後については常設型ではなく、定期的な行事としてガンケ山遊びを実施していく予定です。ふれいばへの引率事業はあびら教育プランの実施しているふれいばやワクワク研究所へ小学生が将来的に参加しやすくなることや放課後帰宅してからエントランスに行くことが難しい家庭もあることから企画し、一定程度のニーズがあったため通年で実施しました。新年度からふれいばの実施自体が中止ということもあり、令和6年度のみの実施になります。

利用者のアンケート結果も大変良好であり、今後も子ども達が楽しくワクワクする活動や参加したくなる行事の企画をおこなっていきます。

令和7年度は放課後子ども教室を見直し、より子ども達が参加したくなる行事や普段ではできない体験活動、地域の人材を活用した体験教室などを企画していきます。また隣接する中学校施設を使用させていただき、これまで児童館ではできなかった球技やバトミントンなどができるように中学校と連携していきたいと考えています。